

令和4年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

I 自己評価		岐阜県立華陽フロンティア高等学校定時制課程		学校番号	6401
1 学校教育目標	1 高校生としての基礎的・基本的な知識や技能と主体的に学習する意欲や態度を身に付けさせ、生徒一人一人の個性を伸ばし、心豊かでたくましく生きる力を育む。 2 社会の規範を守る態度を養い、地域社会の一員としての自覚を高める。 3 健康で安全な生活を送るため、基礎体力の向上を図り、健康な心身の保持増進に努める態度を育む。				
2 スクール・ポリシー	『育てたい生徒像』 グラデュエーション・ポリシー（GP）	『生徒をどう育てるか』 カリキュラム・ポリシー（CP）	『どんな生徒を待っているか』 アドミッション・ポリシー（AP）		
	1 基礎的・基本的な知識や技能を身につけた生徒 2 主体的に学習する意欲や態度を身につけた生徒 3 心豊かでたくましく生きる力を身につけた生徒 4 社会の規範を守る態度を身につけた生徒	1 「わかる喜び」の涵養（学びの再チャレンジ） 2 キャリア教育の推進 3 「カウンセリングマインド」に基づく積極的傾聴（共感的理解・無条件の肯定的関心・自己一致）	1 「自分の生き方」を真剣に考え、やると決めたことはあきらめない生徒 2 「なりたい自分」を見つけたいと願っている生徒 3 自分にも、周りにも、優しい言葉をかけてあげられる生徒		
3 現状の分析	○生徒の個々の課題を把握し、特別支援の対応を大切にしつつ、総合的な探究の時間にソーシャルスキルトレーニング（以下SST）を取り入れることで、社会自立につながる支援に取り組んでいる。 ○ICTの活用とユニバーサルデザイン（以下UD）を意識した授業展開を積極的に実践している。基礎学習の振り返り場面や習熟度別・少人数指導を行う科目の設定、多様な選択科目を設定するなど、生徒の学びやすさを高めるための柔軟な指導を積極的に行っている。 ○「職員の共通理解に基づく進路相談体制の充実」「資質向上に繋がる充実した進路行事の実施」 ○「校外機関・職員間の連携を密に図り生徒状況を受容・理解した支援」「情報共有・共通理解に基づく教育相談体制の充実」 ▲さまざまな事情から継続した学習経験の少ない生徒が多く、短期的に基礎学力の定着に至ることは難しい。 ▲「地域との交流及び学校への理解の不足」「困難な家庭事情への対応」「様々な特性をもった生徒への対応」 ▲「生徒の様々な問題行動要因背景を把握した個に応じた早期対応」				
4 学校の抱える課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ SSTで身に付けた力を、授業において効果的に活用し、社会的に自立するためのスキルの獲得を目指す方法の検討と実践。 ・ 社会自立に必要な基礎学力を定着させるために、学力向上に接続できるような授業展開の検討と実践。 ・ 早期からの進路意識の涵養（地域創生キャリアプランナーやハローワークジョブサポーター、キャリアパスポートを活用して、自己の将来像を描くためのキャリアカウンセリングを実施し、自己肯定感を育み、社会に貢献する意欲を養う。） ・ 様々な問題を抱えた生徒に対する個に応じた指導の充実 ・ 高校生としての基本的な規律の習得や、社会の一員としての規範意識の向上 ・ 学校行事やボランティア活動を通して、達成感や充実感を味わい、自己肯定感の向上を図る 				
5 今年度の具体的な重点目標	1 教務 ①自己の在り方生き方を自ら考える力を育成し、良好な人間関係を構築する力を養う。 ②興味・関心を高める授業を行い、分かる授業を推進し、基礎学力の定着を目指す。 2 進路指導 ①生徒が社会的・職業的に自立できるようマナーと基礎的な能力を養う。 ②自己の在り方生き方やライフプラン、主体的に進路選択ができるキャリア教育の実施と豊富な進路情報の配信 3 生徒指導 ①カウンセリングマインドを活用し個に応じた生徒理解 ②問題行動要因をアセスメントにより可視化し、認知の改善を実施することで問題行動を予防すること ③社会の一員としての自主的・実践的な態度の育成				

年 度 目 標		年 度 末 評 価				
6 評価項目 領域・分野	7 重点目標の達成に必要な 具体的取組・方策	8 達成度の判断・判定基準 あるいは評価指標	9 取組状況・実践内容 評価項目の達成状況等	10 評価 A・B・C・D	11 成果と課題	12 総合 評価
自己の在り方・ 生き方を考える力の育成、良 好な人間関係の 構築、総合的な 探究の時間	①授業中における、SSTを導入し 聞く・話す・協力するスキル の獲得の検証	①「授業アンケート」の自己 評価の向上、スキル獲得の 向上がみられたか。	①「授業アンケート」の生徒自己評価 は聞く・話す・書く・協力するスキル それぞれ80%以上であった。	A	○基本となる全てのスキ ルに対して意識し、実践 しようとする姿が確認 できた。	A
	②年次ごとに系統性をもたせ、 身に付けさせたいスキルを設 定	②SSTアンケートの結果の結 果において。スキル獲得の 向上がみられたか。	②各年次で3～5回のSSTを実施し た。スキル獲得に向け、意識して取り 組めた。全年次でスキル獲得の傾向が 確認できた。	A	▲実社会で生き抜く逞し さを身に付けさせる必 要性が年々高まっている。 方法の検討が急務で ある。	
学習指導	①興味・関心をもって授業に取り 組むためのICT機器の活用方法 の研究と、UD（ユニバーサルデザイン） を意識した授業実践	①「授業アンケート」における 生徒の前向きな姿、興味・関 心に関する肯定的評価が、70 %以上であったか。	①「授業アンケート」による興味・関心 に関する回答結果は、肯定的回答が90 %以上と非常に高評価であった。全項 目において、年々肯定的回答が増加し ている。	A	○生徒の授業に対する意識や 興味・関心が、より一層高 まった。 ▲基礎学力定着のための具 体的方策を検討する。	A
授業改善	①ICT機器を積極的に活用した授 業実践	①ICT機器やタブレット、各種 アプリを効果的に利用する。	①ICT機器やタブレット等をすべての教 科で日常的に活用できている。	A	○ICT機器、タブレットの活 用が一層促進された。 ▲タブレットや各種アプリを 効果的に用いる授業展開を 継続して検討・研究し、実 践の公開を促進する。	A
	②教員間の公開授業の実施と公開 授業の参観率の向上	②職員の公開授業率、参観率を 高める。	①授業公開実施率は100%だった。公開授 業期間における参観率は約50%であ ったが、全ての科において、研究授業を実施 できた。	B		
キャリア支援	①コミュニケーション能力の向上 を図り、社会的・職業的自立 を支援します。	① 面接や履歴書指導など、 生徒一人一人に応じた指 導ができたか。 ②卒業時における進路未決定 の生徒を25%未満に減ら せたか。 ③ソーシャルスキルトレーニング（SST）を 計画的に実施できたか。	① HR担任による徹底した面接・ 作文指導キャリアプランナーやジョ ブサポーターによる活発な就職面談 の実施 ②進学100%(40/40)、就職98%(57/58)、 進路未定20%(20/125) R04.3月末 ③総合的な学習の時間を利用し、必要 なスキル見だし、年次により年2～ 5回のSSTを実施	A A A	○きめ細かい指導による一 次試験での合格率の向上 ○粘り強い指導で、進路未 定者が25%を達成できた。 ○年次毎に必要なとされるSS Tを実施できた。	A
	②様々なキャリア教育関連行事の 開催、豊富な進路情報を配信し ます。	①キャリア教育活動の一環と しての充実した進路行事を 実施できたか。 ②「学校評価アンケートにお ける進路指導関連項目にお いて、肯定的評価が70%以	①進路情報の発信を積極的に実施 進路ガイダンスなど多く進路行事を 生徒のニーズに合わせ、効果的に実 施 ② 保護者75% 生徒76%が肯定 的的回答	A A	○キャリア関連行事が進路 決定に大きく寄与（アン ケート結果より） ○更なる1，2年次生への 進路意識の涵養 ▲キャリアパスポートの活	

		上であったか。	生徒の進路に対する意識付けが、できてきている。		用	
生徒指導	①カウンセリングマインドを柱に生徒との信頼関係を築く。	①新入生の長欠者を25%未満に減少できたか。	①年2回、生徒情報交換会を全職員で実施した。年次会と生徒指導部が情報共有をし、問題の早期発見に努めた。	B	▲新入生の30日以上欠席者53名中、15名が30日以上欠席した。(28%)	B
	②規範意識を向上させ、問題行動の未然予防・再発を図る。	②問題行動の再発をゼロにすることができたか。	②アセスメントを導入し、問題行動要因の可視化を図った 認知行動療法による認知改善を実施した。	B	▲問題行動の再発が1件あった。 ○認知行動療法により、規範意識を高めることができた。	
	③MSリーダーズを中心としたボランティア活動への積極的な参加を勧め、生徒の自己肯定感の向上を目指す。	③MSリーダーズ活動が年間2回以上実施できたか。	③生徒会が中心となって「高校生防災アクション」に参加し、防災意識の向上を図った。	A	○MSリーダーズ活動を年間2回実施した。	
	④生徒一人一人に応じた教育相談体制の充実を図る	④「学校評価アンケート」の肯定的評価が、生徒60%、保護者70%以上であったか	④年3回教育相談週間で懇談を実施した。 日常的に専門家とのカウンセリングの面談を実施した。	A	○肯定的評価は生徒が78%、保護者が77%であった。	

II 学校関係者評価

実施年月日：令和5年2月2日

<ul style="list-style-type: none"> 先生たちは本当に良くやっていると思う。生徒たちの表情が明るい。文化祭での委員への接し方も好感が持てた。 生徒が多様化しているのも良くわかる。自己肯定感を高められるよう、上手に評価してやって欲しい。 キャリア教育や情報リテラシーなど、社会へ出て生きられる力をつけることは大切。早期からの進路意識を持たせて、自信を持てるようにさせてほしい。 ITを扱うような力も必要。以前は、就職してから会社で教わったが、今は先生たちから高校生の時に学べると良い。 子どもから、タブレットの利用について、便利な点もあるが、「後に記録として残らない」ことが心配だと聞いたことがある。使い方や、勉強の仕方についての工夫も教えてやってほしい。自分の手で書くことで分かる生徒もあるかもしれない。 コロナ禍で、人と人との関わりの大切さを認識した生徒もある。人との付き合い方も教えてあげてほしい。

12 来年度に向けての改善方策案

- SSTや各種行事を通して、他者と関わる力を向上させ、実社会を生き抜く逞しさを身に付けるための支援や指導を行う。
- 研究授業を実施し、基礎学力定着のための具体的方策を各科で継続研究する。
- 困難な家庭事情のある生徒への進路指導において、家庭と生徒と担任の連絡をさらに密にして生徒の進路希望について情報共有を図り、必要に応じて関係機関につなぐ。
- 様々な特性をもった生徒への進路指導では、手帳の取得なども含め、特性に合った進学・職業選択について、外部機関などを利用しながら対応する。
- 生徒の抱える問題行動要因が多様化している。その背景を正確に把握していくため、アセスメントを事前実施し、可視化した情報を共有する。
- カウンセリングマインドを心掛け、生徒との信頼関係を構築し、日常的な生徒支援を継続して実施する。
- 虐待、ヤングケアラー等の早期発見、早期対応を心がけ、外部の専門機関との連携を密にする。